

# 心理学的な理論と支援(社会心理学)

単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
4単位	R	1・2年
担当教員	吉田 綾乃	

## ■授業のテーマ

社会的認知の観点から日常的な推論と行動のメカニズムを理解する

## ■授業の目的

日常生活において私たちが自己や他者、社会的出来事について行っている推論の過程と、その推論に基づく判断・行動を、社会的認知の理論と研究知見に基づいて理解することを目的とする。あわせて、こうした認知過程がもたらす利点と限界を踏まえ、より適切な判断や行動を導くための社会的認知の活用と制御の視点を身につける。

## ■授業の到達目標

- 1) 自己・他者・社会に関する日常的な判断や行動を、社会的認知の概念や理論を用いて説明できる。
- 2) 日常生活において生じる推論の偏りや誤りについて、社会的認知研究の視点から具体的に分析できる。
- 3) 社会的認知の観点から、偏見や対人葛藤などの生起メカニズムとその低減・解消に向けた方策について考察できる。

## ■授業の概要

社会的認知 (social cognition) とは、人間が自己や他者、社会的環境、さらには社会の中で生じるさまざまな出来事をどのように認知し、解釈し、推論しているのかを明らかにしようとする社会心理学の研究領域である。私たちは日常生活の中で、限られた情報に基づいて他者の意図や性格を推測し、自分自身を評価し、社会的状況に応じた判断や行動を選択している。本授業では、こうした日常的な推論過程を中心的な分析対象とし、情報处理的アプローチに基づく社会的認知研究の理論と知見を体系的に学ぶ。推論がいかんして判断や行動を導くのかを理解するとともに、その偏りや誤りが生じる条件について検討し、より適切な社会的判断や行動を導くために社会的認知をどのように制御しうるのかについて考察する。

## ■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	社会的認知とは(第1章)	認知革命、スキーマ、認知的倏約家、動機づけられた戦略家、駆動される行為者	人間が限られた情報処理資源のもとで、いかに効率的かつ目的志向的に社会を理解しているかを学ぶ。「認知的倏約家」、「動機づけられた戦略家」から「駆動される行為者」という人間観への変遷を理解する。
2	対人認知(第2章)	対応バイアス、自発的特性推論(STI)、自発的特性転移(STT)、ドリアン・グレイ効果、顔名前一致効果	他者の行動から性格や特性を推論する過程に焦点を当て、対応バイアスなどの代表的現象を通して、対人判断がいかん自動的にかつ偏りやすいかを理解する。
3	ステレオタイプ(第3章)	ステレオタイプ、偏見、差別、ステレオタイプ内容モデル、BIAS マップ、ステレオタイプ脅威	ステレオタイプ・偏見・差別の関係を整理し、社会的認知の枠組みから、外集団に基づく推論が生じるメカニズムを理解する。
4	ステレオタイプ・偏見の維持過程(第3章)	認知バイアス、システム正当化動機、進化心理学、外国人嫌悪、感染症脅威	偏見やステレオタイプが修正されにくい点に着目した理論を学び、社会的認知が現状維持に寄与する側面を理解する。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
5	偏見・ステレオタイプの低減(第3章)	ステレオタイプの連合の変容、ステレオタイプ抑制、接触仮説、仮想接触	接触や認知的介入が、どのようにステレオタイプの推論を変容させるのかを学び、社会的認知の調整可能性とその条件について理解する。
6	自己認知(第4章)	自己認知、自己知覚理論、自己関連づけ効果、自己評価、自己概念、関係性自己	自己に関する知識や評価が、他者理解や社会的判断とどのように結びついているのかを学び、自己認知が社会的認知の中心的要素であることを理解する。
7	自己制御(第4章)	自己制御、制御理論、行動抑制システムと行動賦活システム、目標間の葛藤、実行機能、自我枯渇	目標追求や行動抑制のメカニズムを社会的認知の視点から捉え、自己の判断や行動がどのように制御され、また失敗するのかを理解する。
8	認知と感情・動機(第5章)	シャクターの2要因説、帰属モデル、認知的評価理論、ムード一致効果、FAI理論	感情が単なる反応ではなく、推論や判断に影響を与える情報源であることを学び、認知・感情・動機の相互作用を理解する。
9	感情と情報処理スタイル(第5章)	知的複雑性、動機次元モデル、状況的焦点化理論、社会的情報としての感情アプローチ	感情状態によって情報処理の様式が変化することを理解し、日常の判断が状況やムードに左右される仕組みを社会的認知の観点から捉える。
10	自動的処理と統制的処理(第6章)	社会的プライミング、セット-リセットモデル、同化効果、自動動機、ステレオタイプの自動性と統制性	人間の社会的判断や行動が、意識的な統制だけでなく自動的過程によっても導かれていることを学び、両者の関係性を理解する。
11	偏見と潜在態度(第6章)	回避的差別、潜在連合テスト	顕在的態度と潜在的態度の違いに注目し、本人が意識していない認知が行動に影響を及ぼす可能性について理解する。
12	2過程モデル(第6章)	2過程モデル、システム1とシステム2、過程分離モデル、統制可能性、非意識的統制	社会的判断における2つの処理過程を学び、どのような条件で直感的判断が優位になるのか、また統制が可能になるのかを理解する。
13	文化と社会的認知(第7章)	文化的自己観、自己高揚と自己卑下、分析的-包括的思考様式、居住地流動性、関係流動性、名誉の文化	社会的認知が文化的文脈に強く依存することを学び、自己や他者に関する推論が文化によってどのように異なるかを理解する。
14	神経科学と社会的認知(第8章)	fMRI、心の理論、ミラーニューロン、共感、シミュレーション説、内側前頭前野、海馬、扁桃体	脳科学的知見を通して、社会的認知がどのような神経基盤に支えられているのかを概観し、心理学的理論との接点を理解する。
15	ウェルビーイングと社会的認知(第9章)	主観的ウェルビーイング、エウダイモニア、欲求/目標充足説、過程/活動理論、素因理論、総合的モデル	社会的認知がウェルビーイングとどのように関係しているかを学び、日常の推論や行動のあり方が個人の幸福や適応に与える影響を理解する。

## ■レポート課題

課題1	日常生活において自己や他者、社会的出来事について行われている具体的な推論の事例を一つ取り上げ、社会的認知の理論を用いてその認知過程、判断・行動への影響、ならびに調整や制御の可能性について論じなさい。
課題2	偏見や対人葛藤、集団間対立など、社会的認知に基づく推論の偏りが関与する社会的現象を一つ取り上げ、その生起メカニズムと、認知の調整・制御による改善の可能性について論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス

本課題では、身近な日常場面における「当たり前に行っている推論」を、社会的認知の視点から言語化・理論化することが求められます。まず、事例は「自分や他者がどのように状況を解釈し、判断や行動に至ったのか」が具体的に描写できるものを選んでください。単なる体験談にならないよう、状況・推論・判断・行動の関係を整理することが重要です。次に、その推論過程を説明できる社会的認知の理論や概念を明示し、専門知識をもたない読み手にも理解できるように説明してください。理論を紹介する際には、なぜその理論が

この事例に適しているのかを示すと、考察の説得力が高まります。考察では、推論が有効に機能している側面だけでなく、偏りや誤りが生じる可能性にも目を向けることが重要です。その上で、どのような認知の見直しや情報の扱い方によって、判断や行動をより適切なものに調整できるのかを検討してください。理論に対する理解を、自己の認知や行動を省察・制御する視点へとつなげることが本課題のポイントです。

## 課題2 アドバイス

本課題では、個人の認知を起点としつつも、複数の人々や集団、社会的文脈が関わる現象を対象とします。そのため、まずは当該現象について、新聞記事や調査報告などを用いて事実関係や背景を整理してください。印象論や価値判断を先行させず、「何が起きているのか」を客観的に示すことが重要です。理論の適用にあたっては、個人の推論がどのように共有され、強化され、集団的な判断や行動へとつながっているのかという点に注目してください。社会的認知の理論を用いて、推論の偏りが生じやすい条件や状況要因を分析することで、現象の理解が深まります。また、解消法を論じる際には、単に「意識を変えるべきだ」とするのではなく、認知過程のどこに介入することで、判断や行動の変化が期待できるのかを具体的に検討してください。個人レベルの認知の調整にとどまらず、制度や環境、情報提示の工夫など、社会的条件の調整にまで視野を広げると、メゾ～マクロの視点が明確になります。理論の有効性と限界を踏まえた現実的な考察を行うことを意識してください。

以下にレポートの書式に関するアドバイスを示します。提出前に必ず確認してください。

### ・構成を明確にする

レポートは「序論—事実（資料）整理—理論の説明—考察—結論」の流れを基本とし、各部分の役割を意識して執筆してください。

### ・事実と意見を区別する

事例や社会的現象については、資料や先行研究に基づく事実をまず示し、その後に理論に基づく解釈や考察を行ってください。

### ・理論を明示して用いる

使用する社会的認知の理論や概念を明確に示し、専門用語は定義したうえで用いてください。理論の説明は、心理学の知識がない読み手にも伝わることを意識してください。

### ・事例と理論を対応づけて考察する

理論の要約に終わらせず、事例のどの部分をどの理論で説明しているのかを明確にしながら、生起メカニズムや判断・行動への影響を論じてください。

### ・一貫した視点で論じる

原則として一つの理論的枠組みを軸に、生起メカニズムと調整・解消の可能性を論じ、論理の飛躍や矛盾を避けてください。

### ・引用と参考文献を適切に示す

先行研究や資料を用いる場合は、本文中引用と参考文献リストを対応させ、出典を明確にしてください（APAスタイルが基本）。

### ・結論で全体を整理する

結論では、考察で明らかになった点を簡潔にまとめ、理論の有効性や限界に触れましょう。結論では新たな論点は持ち込まないようにしてください。

## ■評価の方法・基準

課題レポート60%（各レポート30%）、試験レポート40%

## ■参考文献（\*印＝大学から送付される必読図書）

\*1) 唐沢かおり編 2020年 『社会的認知 現状と展望』ナカニシヤ出版

2) S.T. フィスク、S.E. テイラー著 宮本聡介ほか編訳 2013年 『社会的認知研究 脳から文化まで』北大路出版

- 3) 唐沢 穰ほか著 2001年 『社会的認知の心理学 社会を描く心のはたらき』 ナカニシヤ出版
- 4) 上瀬由美子著 2002年 『ステレオタイプの社会心理学 偏見の解消にむけて』 サイエンス社
- 5) 岡 隆編 2004年 『社会的認知研究のパースペクティブ 心と社会のインターフェイス』 培風館
- 6) 大島 尚・北村英哉編著 2004年 『認知の社会心理学』 北樹出版
- 7) 北村英哉著 2004年 『認知と感情 理性の復権を求めて』 ナカニシヤ出版
- 8) ジョン・バージ編 及川昌典ほか編訳 2009年 『無意識と社会心理学 高次心理過程の自動性』 ナカニシヤ出版
- 9) 池上知子著 2012年 『格差と序列の心理学 平等主義のパラドクス』 ミネルヴァ書房
- 10) 潮村公弘著 2016年 『自分の中の隠された心 非意識的態度の社会心理学』 サイエンス社
- 11) 北村英哉・唐沢 穰編 2018年 『偏見や差別はなぜ起こる？ 心理メカニズムの解明と現象の分析』 ちとせプレス